

令和4年度第3回千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議開催結果

<日時>

令和5年2月21日(火) 10時00分～11時20分

<場所>

総合福祉センター4階 402号室

<出席者>

委員及び千歳市・事務局 計25名

【委員】21名

青木会長、田口副会長、濱邊委員、日浦委員、藤原委員、成木委員、高橋委員、結城委員、古田委員、佐藤委員、岡田委員、後藤委員、鈴木委員、小泉委員、伊藤委員、濱野委員、玉井委員、山崎委員、影山委員、奥貫委員、吉田委員

※欠席(6名)

木村委員、菊池委員、斎藤委員、山坂委員、清水委員、森本委員

【千歳市・事務局】4名

(千歳市) 満山自立支援係長

(事務局) 谷本障がい者支援課長(事務局長)、千葉障がい福祉係長(事務局次長)、品田Chipセンター長(事務局次長)

<配布資料(別添のとおり)>

議題(1)各部会活動報告

- ①相談支援部会
- ②こども部会
- ③はたらく部会
- ④地域生活部会
- ⑤手話言語条例推進専門部会
- ⑥進路連絡会議

議題(2)千歳市からの報告

- ①(仮称)障がい者コミュニケーション条例の意見交換会について

<次第>

1 開会

2 あいさつ

千歳市障がい者地域自立支援協議会 青木会長あいさつ

令和4年度第3回千歳市障がい者地域自立支援協議会の開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

皆様におかれましては、平素より協議会の運営に特段のご配慮を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、感染拡大の波が続いておりました新型コロナウイルス感染症につきましては、今後、感染症法上の位置付けの引き下げが予定されておりますが、それに伴い、医療機関の病床の縮小や救急のひっ迫等も懸念されておりますことから、対策は、引き続き、継続される必要があるものと考えられます。

本会議におきましても、できる限りソーシャル・ディスタンスを確保しつつ、短時間で開催してまいりたいと考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

さて、今回の協議会は、今年度最後の定例会議となり、これまでの各部会の活動報告を主な内容としております。

委員の皆様におかれましては、障害者総合支援法の規定に基づき、「関係機関等が相互の連絡を図ることにより、地域における障害者等への支援体制に関する課題について情報を共有し、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について」ご協議いただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健康と今後益々のご活躍を祈念いたしまして、簡単ではございますが、開会のごあいさつとさせていただきます。

3 議題

(1) 各部会活動報告

各部会長等から「議題（1）資料」のとおり報告があった。

- ①相談支援部会（奥貫部会長）
- ②こども部会（影山部会長）
- ③はたらく部会（結城部会長）
- ④地域生活部会（岡田部会長）
- ⑤手話言語条例推進専門部会（佐藤部会長）
- ⑥進路連絡会議（品田事務局次長）

【質疑等（議題（1））】

< A委員 >

年度の最初の定例会で、グループホーム部会の話が出ていたと思うが、それはどのようになっただか。

< 千葉事務局次長 >

進め方について検討しており、まだ、結論は出ていない。

< B委員 >

こども部会にお尋ねしたい。

発達障がいのあるお子さんがA小学校からB小学校に異動したが、異動した途端に問題が起き、学校に行きたくないということで、家に引きこもっている。

その相談を受けたが、どこに橋渡ししたら良いのか、非常に迷った。

A小学校では本人の意見を聞き入れてくれたが、B小学校に移った途端に、こどもの話を聞いてくれなくなった。

こどもは落ち込み、人間不信になり、学校に行きたくなくなった。

その場合は、どこに相談すると良いのか。

<影山部会長>

放課後等デイサービスを利用していけば、そこの担当者や、サービス等利用計画を立てる相談支援専門員がいれば、その専門員と連携が取れると良いのではないかと。

<B委員>

事業支援は受けていないと思われる。

<影山部会長>

それであれば、千歳市障がい者総合支援センターのChipに相談されても良いと思われる。

<A委員>

発達障がい児者の親の会に入っているが、北海道で親の悩みを聞く活動を行っており、千歳市では、こども療育課が窓口となっている。

同じ悩みを抱える保護者と話をしたいということがあれば、そのような場を利用することもできる。

(2) 千歳市からの報告

① (仮称) 障がい者コミュニケーション条例の意見交換会について

千葉障がい福祉係長から「資料(2)-①」のとおり報告があった。

【意見等(議題(2))】

<B委員>

今の議題についてではないが、事務局にお願いしたい。

自分は、自治会の会長、住宅の管理人、福祉の方もやっている。

例えば、支援事業センターに雇用されている方等の名簿が欲しいと思う。

先日、「C」という支援事業所に勤務されている方が突然、3日位いなくなり、自分のところに担当の方が来られた。

常日頃、声掛けはしているが、本人から、支援事業センターで働いているという申告は一切なく、こちらから聞くわけにも行かない。

働いていることはわかっているが、どこに勤めているかはわからない。

3日も連絡がなく、病気にでもなっていたら大変なので、事業所の方と一緒に部屋に入ったが、鍵がかかっておらず、テレビはつけっ放しの状態で、家の中のどこにもいなか

ったので、住宅管理センターに連絡して確認してもらい、やっと、本人が入院中であることがわかった。

死亡したりしていたら大変なので、この方はこういう事業の支援センターに勤めているということがわかるような方法で、これから先やっていただきたい。

<谷本事務局長>

その方がどこに勤めているかをわかるようにすることができるかどうかはわからないが、緊急時に迅速に対応できる体制づくりは必要なので、ご意見を参考に、体制について検討していきたい。

<C委員>

現場についてお伺いしたい。

コロナ禍において、自閉症の方々のマスク対応で苦勞された点はあるか、障害サービスを受けていた方が65歳になって介護保険に移行する際、制度が変わることによって現場で苦勞されている点があるか、親が亡くなった後の介護の支援体制がどのようになっているかを教えていただきたい。

<結城委員>

コロナ禍においては、全施設が戦争状態だったのではないかと感じられるが、これから新しい時代に入っていくことから、はたらく部会でも対策を話し合っていかなければならないと思っている。

マスクについては、自閉症のみならず、障がいのある方について苦勞はあり、離れて休憩するよう指示していても、気が付いたら固まって話をしていて、マスクをしていない利用者がいたり、コロナがかぜのように全体的に移って行った経緯もあり、発熱があればすぐに休ませることができるが、無症状の方もいたり、検査も追い付かない時期もあったりしたことから、今後、就労施設間で全体会議をして、対応について話し合ったら良いと思っている。

また、マスク着用を指示しても、その時はするが、しばらくすると外してしまうこともあり、コロナ以外の感染症のことも考えた場合、今後の対応について、話し合う必要はあると考えている。

<田口副会長>

グループホームを担当しているが、そもそも、障がい福祉サービスを利用していないで、65歳を過ぎてから利用したいとなった場合は利用が難しく、介護保険を利用することとなるが、介護保険にないサービスについては、障がい福祉サービスを利用することとなる。

グループホームにおいても、65歳を超えた利用者はたくさんいるが、生活介護やB型に通っている方もおり、認知や身体機能で生活が厳しくなってきた方については、このサービスで良いのか、都度、サービス担当者が意見を交換しながら、どの時点で高齢に移行すれば良いのかを、通っているところと住んでいるところの担当者が、本人の意向を確認しながら、担当者会議を行い決めて行くこととなる。

また、グループホームを利用しながら、高齢の訪問リハビリ等を受けることもできるが、これはできるけどこれはできないなど、いろいろな問題が出てくることから、移行の際には、ケアマネージャーの方と、今使っているサービス、過ごされている生活のスタイルがどれ程変わるのかをひとつひとつ確認しながら、可能な場合には本人にも説明しながら、移行を少しずつ行う場合や、医療的なケアが必要な時には高齢に移っていただいたケースもあるので、個別ではあるが、本人の意向やまわりの意見を確認しながら丁寧に進めて行く必要がある。

<岡田部会長>

親の高齢化については、我々も問題にしており、常に後見人制度の勉強と、障がい者本人にマイナンバーカードや実印を作る方法を考えながら、親亡き後に、どこに移行するかを書き残す形など、いろいろ工夫しているところである。

<青木会長>

親亡き後については、渡部伸という方が本を執筆しており、事前の準備等について詳しく書かれているので、ご参考にしていただきたい。

<C委員>

親亡き後については、周りの支援体制が十分にあれば何とか乗り越えられると思うが、体制が難しいと思われ、制度的にもややこしいので、現場の本音を知りたいと思った。

4 その他

【質疑等】

<青木会長>

既に、その他の話に入っているので、その他、議題以外についてでも、何かあれば、お願いしたい。

<B委員>

自分は、現在、市営住宅に入っているが、市営住宅では、親名義で入居していて親が亡くなった場合、子は3か月以内に出なければならない。

そうすると、住居がなくなってしまうことから、例えば、事前に何らかの手続きをすれば、親が面倒を見ていた子はそのまま入居できるなどの方法はないのか。

<谷本事務局長>

障がいのある方の話か。

<B委員>

精神の障がいのある方は、残ってられるらしい。

<谷本事務局長>

障がいのある方なら、相談支援専門員に相談していただくことにより、グループホームにつなげるなどのサービス体制があるので、そのようなサービスを受ければスムーズに行くと考えます。

市営住宅の制度に関しては、担当の方にも、何か良い方法がないか、確認したい。

<D委員>

障がい者コミュニケーション条例の意見交換会について、手話言語条例を作る際には担当の部会があったが、話し合いには時間がかかった。

1年位かかったと記憶している。

意見を出し合ってから進めるのでは時間がかかるので、意見を交換しつつ、条例を検討する方法を同時に行った方が良いのではないか。

また、65歳以上の高齢者の方について、自分は、札幌市のろうあ者の相談員をしているが、聴覚障がいの子がいて、親が脳梗塞となって身体が不自由になり、長期入院により介護が必要となった。

それで、自分のところに相談に来たが、どこにつなげたら良いかわからなかった。

千歳市の場合は、Chipに相談することになると思うが、受付窓口があるという情報が不足しているので、周知が必要と思われる。

<谷本事務局長>

障がい者コミュニケーション条例については、今年度、国が意思疎通支援に関する法律を施行したが、その中で、市、事業者、国民に義務が課せられており、市の責務としては、意思疎通支援に係る施策を策定して実施することが規定されている。

このことから、まずは、今困っている方を支援するため、どんな場合に、どんな支援が必要か、具体的な施策を、来年度策定する障がい者計画の中で策定して、市内で展開して行くことが重要と考えている。

この施策は、条例のあるなしに関わらず、法律に基づいて実施しなければならないので、まずは、施策を展開してみて、事業者、関係団体、市民の間で意思疎通支援に関する理解が深まって、条例制定を希望する声が上がって来た時が、制定する時期であると考えている。

今後、関係団体等とよく意見交換をして、検討方法を考えていきたい。

困難ケースの相談窓口は、千歳市の場合は、Chip（千歳市障がい者総合支援センター）を利用していただきたい。

<E委員>

ここでの質問をする上でのルールがあるのかお聞きしたい。先ほどから、再三、手を挙げていたが、やっと回ってきた状況である。

<青木会長>

ルールがあるわけではない。こちらの不手際で順番が遅くなってしまって申し訳ない。

<E委員>

確認の意味で、お尋ねさせていただいた。

質問は、条例についてで、表記上、「障がい」の「がい」がひらがなになっており、意図するところはわかるが、「障害」は熟語であるので、国の法律や施設名、組織名などは漢字もある。

今回の資料の中にも、漢字で表記されている箇所がある。

一般的に配慮しているということはあるが、自分が聞いた範囲では、漢字の「害」に特に悪い印象を持った方はおらず、むしろ、ひらがなの「がい」に違和感があるという意見が多かった。

実際のところはどうかを、調査するか、この会議の中で検討しても良いと思うが、ひらがなとすることの是非を検討していただくことを提案したい。

それに対して、この場で回答があるのであればいただきたいし、検討するというのであれば、それでも良い。

自分のまわりで障がいのある方に聞いた範囲では、漢字を使うことが嫌だという方は今のところはおらず、ひらがなを使う方がむしろ目立って、度が過ぎる配慮であるという人はいる。

その他は、どちらでも良いか、何人かはひらがなを使うなら全部ひらがなにする、あるいは中途半端な配慮をするのであればカタカナにしてはという意見もあったが、いずれにしても、漢字が嫌だという意見は聞いたことがないので、条文になる以上、検討すべきであるとする。

<谷本事務局長>

市では、平成19年4月1日から、公用文書、啓発パンフレットなどの表記について、「害」の字をひらがなとすることに決定している。

次回策定する障がい者計画、障がい福祉計画で、皆さんの総意があれば、「がい」の字を変えることはできると思うが、それには、皆さんとの話し合いが必要となるので、話し合いを経てということになると思われる。

<E委員>

調査するなり、意見を聞くなりしていただきたい。

<結城委員>

障がい者の相談対応については、今後、Chipもせらびもキャパオーバーになることが予想される。

集約する機関はスムーズに行う必要があることから、何らかの団体があっても良いのではないかと感じている。

就労だと現在、A型、B型で27か所位あるが、コンビニがこどもの避難場所となっているように、就労も、まずは事業所で話を聞くような機関を設けるなど、障がいと高齢で垣根のないのも大事なことだとは思いますが、障がいは障がいで対応しなければならない課題も山積しており、例えばグループホームに入れなくて困る方もたくさん出てくると思うので、別組織のような集まりで、市民にここに相談すると良いというようなものを、大変だが、設けた方が良いと感じている。

令和4年度第3回千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議

日時：令和5年2月21日(火) 10時00分

場所：総合福祉センター4階402号室

<次 第>

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 各部会活動報告

①相談支援部会

②こども部会

③はたらく部会

④地域生活部会

⑤手話言語条例推進専門部会

⑥進路連絡会議

(2) 千歳市からの報告

①(仮称)障がい者コミュニケーション条例の意見交換会について

4 その他

5 閉会

千歳市障がい者地域自立支援協議会委員名簿

任期：令和4年10月29日から令和6年10月28日まで

| 選考区分 | No. | 所属機関・団体等 | 委員役職・氏名 | 備考 | |
|---------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|--|-----------|-------|
| (1) 公募 | 1 | 公募 | 濱 邊 修 平 | 出席 | |
| | 2 | 公募 | 日 浦 祐 子 | 出席 | |
| | 3 | 公募 | 藤 原 聖 輝 | 出席 | |
| (2) 福祉、保健、医療、雇用、教育等に知識及び経験を有する者 | 4 | 千歳公共職業安定所 | 就職促進指導官 成 本 頼 子 | 出席 | |
| | 5 | 北海道石狩振興局保健環境部 千歳地域保健室健康推進課 | 健康支援係長 木 村 章 子 | 代理 | |
| | 6 | 医療法人資生会 千歳病院 | 精神保健福祉士 高 橋 洋 輔 | 出席 | |
| | 7 | 株式会社119INTERNATIONAL | 代表取締役 結 城 悟 | 出席 | |
| (3) 関係機関及び団体等の代表者又は推薦を受けた者 | ア. 障がい者又は障がい児の家族団体又は支援団体等 | 8 | 千歳身体障害者福祉協会 会 長 | 古 田 聖 | Web出席 |
| | | 9 | 千歳聴力障害者協会 会 長 | 佐 藤 義 典 | 出席 |
| | | 10 | 千歳視覚障害者福祉協会 会 長 | 菊 池 悦 子 | 欠席 |
| | | 11 | 千歳市肢体不自由児者父母の会 会 長 | 岡 田 美 智 子 | 出席 |
| | | 12 | 千歳市手をつなぐ育成会 会 長 | 青 木 繁 雄 | 出席 |
| | | 13 | 千歳市つくし会 事務局 長 | 後 藤 邦 子 | 出席 |
| | イ. 福祉、保健、医療、雇用、教育等に関する関係機関又は団体等 | 14 | 千歳市民生委員児童委員 連絡協議会 第3地区 監 事 | 鈴 木 勝 利 | 出席 |
| | | 15 | 千歳市社会福祉協議会 地域福祉課 長 | 小 泉 智 美 | 出席 |
| | | 16 | 千歳商工会議所 中小企業相談所 相談課 長 | 伊 藤 佑 輔 | 出席 |
| | | 17 | 北海道千歳高等支援学校 教 諭 | 斎 藤 芳 朗 | 欠席 |
| | | 18 | 千歳市立北進小中学校 教 諭 | 山 坂 真 広 | 欠席 |
| | | 19 | 北海道南幌養護学校 教 諭 | 濱 野 文 久 | 出席 |
| | | 20 | 就労推進室やませみ 室 長 | 玉 井 俊 導 | 出席 |
| | ウ. 障害福祉サービス事業所等 | 21 | 生活介護ステーションゆみな 代 表 | 清 水 道 代 | 欠席 |
| | | 22 | 就労移行支援事業所ゆうび 管 理 者 | 山 崎 千 尋 | 出席 |
| | | 23 | 青葉の郷 施 設 長 | 森 本 洋 行 | 欠席 |
| | | 24 | 児童通所支援センターラブアリス 千歳桜木別館 管 理 責 任 者 | 影 山 美 樹 | 出席 |
| | | 25 | 共同生活援助事業所いずみ寮 管 理 者 | 田 口 幹 子 | 出席 |
| | エ. 相談支援事業所等 | 26 | 千歳地域生活支援センター セ ン タ ー 長 | 奥 貫 あ い 子 | 出席 |
| | | 27 | 千歳市地域包括支援センター 向陽台区地域包括支援 センター センター 長 | 吉 田 肇 | 出席 |

令和4年度第3回
千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議
議題（1）資料

3 議題

（1）各部会活動報告

- | | |
|---------------|-------------|
| ①相談支援部会 | （P 1～P 2） |
| ②こども部会 | （P 3～P 5） |
| ③はたらく部会 | （P 6～P 7） |
| ④地域生活部会 | （P 8） |
| ⑤手話言語条例推進専門部会 | （P 9～P 11） |
| ⑥進路連絡会議 | （P 12～P 13） |

| 令和4年度 第4回 相談支援部会 報告 | |
|---------------------|--|
| 日 時 | 令和4年11月25日（金） 16:00～17:15 |
| 場 所 | 千歳市社会福祉協議会2階 会議室 |
| 参 加 者 | 千歳地域生活支援センター（奥貫センター長・部会長）、南区地域包括支援センター（石垣氏）、障がい者支援課（小島係長）、こども療育課（宮坂主任）、相談支援センターゆうしんかん（鈴木氏）、千歳市障がい者総合支援センターChip（品田センター長、福田） |
| 要 旨 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各所から、自己紹介と最近相談内容について 2. 地域の状況等について（情報共有） 3. 福祉勉強会等について 4. その他 |
| 会 議 内 容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各所から、自己紹介と最近の相談内容について <ul style="list-style-type: none"> （１）こども療育課：次の4月から4名体制を維持できれば、1年生も相談の対象とすることを検討している。最近は、子が小学のうちから、就労の心配をする親御さんもいる。 （２）千歳地域生活支援センター：よろず的な相談が多い傾向。 （３）その他：生活保護を受けたら、介護保険よりも障がいの制度が優先になる（40歳から64歳） 2. 地域の状況等について（情報共有） <ul style="list-style-type: none"> （１）新しいグループホーム：共生型やさしい介護（幸福）来年1棟増設 B型事業所：コラボワーク 相談支援事業所が1か所増える予定 （２）千歳市障がい者福祉ホームページ：内容更新されていない状態 （３）地域生活支援拠点：緊急避難場所の確保に動き出している 3. 福祉勉強会等について <ul style="list-style-type: none"> 相談の入口での様子の台本を何パターンか作り、実際に演じたところをカメラで撮影して動画にまとめる。 4. その他 <ul style="list-style-type: none"> （１）精神科の病院について：【千歳病院】新しい先生が来て対応されている。【桂病院】空きがある様子【植苗病院】来年中に沼ノ端に移動予定 （２）児童の発達検査のできる病院について。（一覧表がこども療育課にある。） 【千歳市民病院】白石医師・木村医師【道立総合相談所】巡回相談 月1回程度 （３）学習会：「障がいのある子たちの将来に向けて」第1回（CHIPから） |
| 作 成 者 | 千歳市障がい者総合支援センターChip 品田 敏 |

| 令和4年度 第5回 相談支援部会 報告 | |
|---------------------|--|
| 日 時 | 令和5年1月26日（金） 16:00～17:15 |
| 場 所 | 千歳市社会福祉協議会2階 会議室 |
| 参 加 者 | 南区地域包括支援センター（石垣氏）、障がい者支援課（小島係長）、こども療育課（吉田主査）、計画相談つむぎ（横山氏）、相談支援センターゆうしんかん（鈴木氏）、計画相談青空（福田氏）、千歳市障がい者総合支援センターChip（品田センター長） |
| 要 旨 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各所から、自己紹介と最近相談内容について 2. 地域の状況等について（情報共有） 3. 福祉勉強会等について |
| 会 議 内 容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各所から、自己紹介と最近の相談内容について <ul style="list-style-type: none"> （1）あーち：3月は忙しい。1～2月は落ち着いている時期。 （2）青空：児童の相談は不登校傾向の方の利用が続いている。 （3）つむぎ：この時期は皆さん不調でショートメールで2時間話したりする方も多い。電話が日に30本来ることもある。開所から1年経過し、多くの利用者さんが更新を迎えている。 （4）ゆうしんかん：去年3月より開設。Chipからの引継ぎ、3月に事業所の移転を予定。現役のケアマネが相談支援専門員の資格を取ってきている。 （5）石垣氏：高齢者の住居環境（50，80問題）。 （6）支援課：1～2月退院の方が増えている。最近、窓口に精神科入院未成年の方や病院からの相談など増えている状況。 2. 地域の状況等について（情報共有） <ul style="list-style-type: none"> （1）介護認定（市）：オンライン（施設・病院）でも行っている（移動の時間がかからない）。介護認定は、人員不足で、遅れて月をまたぐことが多い。 （2）やさしい介護：4月から開所予定の新規施設について、高齢者用20室以上は既に満員。障がい者用は6，7室ほど空き有。生活保護の方も対象。 （3）児童デイ：ホームアスト、シュシュ（4月開設）など新規開設。 （4）児童の短期入所先がない。（ニーズに対応できていない） （5）ヨツバメイツ：B型→次年度以降に予定としてはあり 3. 福祉勉強会などについて <ul style="list-style-type: none"> （1）模擬動画を全員で視聴 |
| 作 成 者 | 千歳市障がい者総合支援センターChip 品田 敏 |

| 令和４年度 第４回 こども部会 報告 | |
|--------------------|---|
| 日 時 | 令和４年 12 月 22 日(木) 10：00～11：00 |
| 場 所 | 千歳市社会福祉協議会 会議室 2・3 |
| 参 加 者 | ラブアリス千歳桜木別館（影山氏(部会長)）、ぱすてる(山本氏)、第二ちとせくらぶ(對馬氏・山崎氏)、SQUARE(山口氏・宮本氏)、こちち(長谷川氏)、千歳市社会福祉協議会（田村氏）、南幌養護学校(濱野氏)、北進小中学校(藤谷氏)、こども療育課(小林氏)、学校教育課(米内山氏)、こども家庭課(児玉氏)、障がい者支援課(満山氏)、千歳市障がい者総合支援センターChip(品田・中村) |
| 要 旨 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回のグループワークの報告 2. 支援者勉強会振り返り 3. 情報交換会(座談会)について 4. 情報提供(課題共有) 5. その他 |
| 会議内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回のグループワークの報告 前回の課題共有で行ったグループワークで出た話を報告・共有している。 2. 支援者勉強会振り返り 11月1日北陽小学校見学会を実施、当日は17機関40名が参加した。2つのグループに分かれ特別支援学級、通級指導教室、通常学級の見学を行った。当日参加した部会メンバーから以下のような感想等が出た。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加できてよかった。出来れば市内の他の学校も見学してみたい。 ・今年度から始まった新しい体制だったが生徒個々に合わせた取り組みがされていて勉強になった。 ・学校によって取り組み方も違うと思うので、機会があれば他の学校の取り組みも見てみたい。 ・クラスごとによって色々な勉強の仕方があり参考になった。 ・なかなか学校の中を見る機会が無いので、子ども達の勉強している様子や道具等色々見ることが出来て勉強になった。 ・初めて学校の現場を見たが、知っている子がいて施設で過ごしている様子と違い環境によって過ごし方の違いがあることを見る事が出来て勉強になった。 3. 情報交換会(座談会)について 発達が気になるお子さんの保護者を対象とした情報交換会について、コロナ禍で2年間開催出来ていなかったが感染症対策を講じた上で開催する方向で検討している。2月中開催を目指して準備を進めていく。保護者同士の情報交換、交流の場であるが、持っている知識や情報を保護者に伝えてもらうため部会メンバーにも参加 |

の協力をお願いしている。就学・就労・福祉サービス・学校生活(不登校等)の4つのグループごとに分かれて行う。

3. 情報提供(課題共有)

(1) 事業所空き情報について

- ① ライフヘルプ 日中一時：水木空き有。移動支援：金空き有。月木土応相談。
- ② ゆうび 日中一時、移動支援共に土空き有。
- ③ ぱすてる 児童発達、放課後デイ共に空き無し。
- ④ ラブアリス 児童発達：月応相談。放課後デイ空き無し。
- ⑤ ラブアリス別館 児童発達、放課後デイ共に空き無し。
- ⑥ 第二ちとせくらぶ 児童発達、放課後デイ共に月金土日空き有。火木応相談。
- ⑦ フェアリー 児童発達空き無し。放課後デイ：火水木空き有。
- ⑧ ブランケット 児童発達、放課後デイ共に土空き有。
- ⑩ ONE SMILE 児童発達、放課後デイ共に土応相談。
- ⑪ 十彩 児童発達：月火水空き有。放課後デイ水木空き有。
- ⑫ デイジーハウス 児童発達、放課後デイ共に土応相談。
- ⑬ にじいろひろばちとせ 児童発達、放課後デイ共に水木金応相談。
- ⑬ SQUARE 児童発達、放課後デイ：月土応相談。
- ⑭ ここち 児童発達、放課後デイ共に月～日空き有。
- ⑭ RASA 放課後デイ：火応相談。
- ⑮ こどもプラス 児童発達、放課後デイ共に火水木金空き有、月土応相談。
- ⑯ のびっこ向陽台 児童発達、放課後デイ共に月～金空き有。

(2) 情報提供

- ・ デイジーハウス…季節にちなんだイベントを行い子どもたちの経験と思い出作りを楽しんでいる。

(3) 課題共有 (グループワーク)

- ① 移動支援・日中一時支援・放課後等デイサービス事業所と学校とのよりよい連携のあり方に関わるアンケート調査結果について。学校と事業所が上手く連携していくためにはお互いを知ることが必要。時間を共有出来るような機会を作れるように方法を検討していく。
- ② 専門職採用についての取り組みをしているか。また専門職の業務内容についてはどのような配慮をしているか。
→・会社全体で保育士を探している。ST・OTを配置して、1日15～20分個別対応

| | |
|-----|--|
| | <p>をしたり、外部から週1回来てもらったこともあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士が多い事業所、スタッフが辞めない配慮を心がけている。個性豊かな資格（栄養士・元養護教諭・元理科教諭）で様々なニーズに対応している。 ・学校では医療的ケア対象生徒がいる為看護師を配置している。 ・保育士の資格保有者を配置しているが、日常業務としては資格有無に関わらず同じ。有資格者は専門的な知識を活かして支援を行っている。発達検査は臨床心理士が主となるが、経験の多い方がサポートしながら取り組んでいる。 <p>③高校生の利用者が数名いるが、他事業所で就労に向けて取り組んでいることがあれば参考にさせてもらいたい。会話やコミュニケーションは十分に可能な子たちで、作業的な取り組みや就労体験のようなことができればと考えている。</p> <p>→ 学校で行う就労に向けての準備では、挨拶や報連相、健康維持等が大切。また議題を決めてディスカッションをしたり、まとまらなくても良いので発言出来るように取り組んだ。卒業する頃には自分から言葉を発することが出来るようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労の場面では人とのやりとりがメインになるので、困りごとを伝えられるようになることや何が出来ないのか相手に伝えられるようになってほしいと考えている。 ・元利用者が就職した恵庭の就労支援事業所ノバスで月1度の農業体験をしている。事業所のイベントで利用者がメインで劇を行い、台本や劇を作るなど取り組んだ。 ・学校の卒業生では児童デイサービスの職員となり裏方業務を行う子がいったり、自力で資格を取り保育士になった子もいた。 ・学校での取り組みや本人に興味のあることを聞き、事業所としての取り組みを考える。頑張る時間も休息する時間、どちらも大切。学校と児童デイで頑張りの差はあるので無理には取り組まない。 ・先を見据えた支援を行うにあたり、情報の第一歩として職員が知識を深めたり、仕事について知る必要があると感じている。 <p>4. その他</p> <p>(1) 次回開催について</p> <p>令和5年2月22日(木) 9時30分～ 千歳市総合福祉センター402号室</p> |
| 作成者 | 千歳市障がい者総合支援センターChip 品田 敏 |

| 令和４年度 第３回 はたらく部会 報告 | |
|---------------------|---|
| 日 時 | 令和４年 12月 2日(金) 13:00～14:30 |
| 場 所 | 千歳市総合福祉センター402号室 |
| 参 加 者 | 27名 【福祉】株式会社 119 インターナショナルエコ・ファクトリー(結城(部会長))、千歳市障がい者総合支援センターChip(品田・鈴木)、社会福祉法人せらび千歳地域生活支援センター(今野)、千歳公共職業安定所(成木)、株式会社ワークセンターピアハーブ(猿山)、株式会社メビウス(柳沢・藤原)、社会福祉法人千歳いずみ学園いずみワークセンター(今野)、株式会社ウインドバレー(千葉)、株式会社ドン・リースアンドレンタル千歳物流センター(佐々木)、マルハチ急行株式会社福祉事業部サークルエイト(青木)、健心サポート(上島)、合同会社コラボワーク(大山)、【企業】 苫東ファーム株式会社(松本・太田)、株式会社デンソー北海道(山本・浅井)、大川農園(大川)、【団体】 公益財団法人道央農業振興公社(宮下)、【行政】 千歳市産業振興部農業振興課(田中・富田・田中)、千歳市保健福祉部障がい者支援課障がい福祉係(千葉) 【事務局】 社会福祉法人千歳いずみ学園就労推進室やませみ(野田・山田・田口) |
| 要 旨 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会・挨拶 2. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 合同説明会「Youmy 市場」活動報告について (2) 令和４年度農福連携活動報告について (3) 農福連携「農山漁村振興交付金事業」について 講師:千歳市産業振興部農業振興課 主事 富田 奏子 様 3. その他・連絡事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 農業への取り組み・農作業マニュアルについて 株式会社デンソー北海道 技術部 業務革新課 農業ビジネス推進係 班長 山本 祐介 様 4. 閉会 |
| 内 容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会・挨拶 2. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 合同説明会「Youmy 市場」活動報告について 活動の目的として、障がいのある人やその家族、友人また地域の人々を対象に福祉事業所の存在や活動内容の情報を提供するなど福祉資源の発信を行うことであると説明、また、当日の参加事業所数や来場者数、来場者の感想や休日に開催してほしいという要望があった事についても説明した。 (2) 令和４年度農福連携活動報告について 資料配布及びプロジェクターを使用し事業所名については伏せた状態で実績を報告。令和４年度については植え付け、収穫、ヘタ切り、雑草取り、野菜の袋詰め、ラベル貼り、箱折りを実施、また規格外で商品にならなくなってしまったところについては、収穫体験として練習や体験の場を提供してもらったと説明した。 大川農園では３事業所が施設外就労を実施、感想として「とても助かった、また来年もお願いしたい」と話された。 安澤ファームでは２事業所が施設外就労を実施、感想として「農福連携により畑を２０％広げることができた、とても助かった、来年もお願いしたい」と話す一方で来年度の課題として、利用者が使用するトイレが遠い事について挙げており仮設トイレの設置を検討されていた。 共通する要望として、令和５年度は令和４年度よりも早い時期でのマッチングを挙げていた。 (3) 農福連携「農山漁村振興交付金事業」について 配布した資料をもとに講師である富田氏が農福連携に関する交付金について説明、説明後の質疑応答にて「はたらく部会として農家さんと事業所が団体を設 |

| | |
|-----|--|
| | <p>立し、一ヶ所に作物と人員を集めて作業する場合は対象になるのか?」「各事業所が抱えている送迎問題について、例えば車輛のレンタルなどは対象なのか?」「事業所が就労の練習を目的として自社内に農園を作る場合は対象になるのか?」「説明が難しすぎて理解が追い付かなかったのだが、メリットデメリットを教えてほしい」「申請は事業所と農家どちらでも良いのか?」など、たくさんの質問が挙がっていた。</p> <p>回答の中で、申請をする最低条件として法人である事が挙げられ、送迎車輛のレンタルについては対象外、その他の質問事項については対象と思われ、申請は可能だが最終的に通るかどうかは分からないとの説明があった。</p> <p>3. その他・連絡事項 (1) 農業への取り組み・農作業マニュアルについて 株式会社デンソー北海道にて行われている農山漁村振興交付金を利用し「農作業マニュアルを作成する事で農作業の効率化に貢献できるのか?」という取り組みについての活動報告があった。</p> <p>4. 閉会</p> |
| 作成者 | 就労推進室やませみ 田口 加奈 |

| 地域生活部会 現状報告 | |
|-------------|--|
| 今年度活動予定 | <p>今年度の活動内容として下記を予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染に関する感染時の対応、ワクチン接種に関する課題等の対応。 ・風水害等の災害対策の議論の機会確保。 ・日中活動、就労先への移動の支援確保 ・支援者が不足していると思われる支援（居宅介護、市外への通院介助、移動支援、短期入所、重度訪問介護等）の対策。 <p>※必要性の高い課題から取り組んでいく事として具体的には今後の部会で検討していくことを確認。</p> |
| 活動報告 | <p>現状の新型コロナウイルス感染症の蔓延状況の中で、確認されてきた課題についての検討が急務であることは構成メンバーの総意ではあるが、感染拡大もあり議論の機会は持てずとなっている。</p> <p>構成メンバーの体調等も考慮して今年度の部会開催は見合わせ、次年度は構成メンバーを追加招集することも検討して進めて行く予定。</p> |
| 作成者 | 千歳市障がい者総合支援センターChip 品田 敏 |

| 令和５年度 第３回 手話言語条例推進専門部会 報告 | |
|---------------------------|--|
| 日 時 | 令和５年２月９日（木） 19：00～21：00 |
| 場 所 | 千歳市社会福祉協議会２階 ２・３会議室 |
| 参 加 者 | 千歳聴力障害者協会（佐藤会長（部会長））、千歳手話の会（神能会長）、千歳要約筆記の会やませみ（打矢代表）、北海道手話通訳問題研究会道央支部千歳・恵庭班（中村班長）、千歳市社会福祉協議会（長澤係長、川北専従手話通訳、武藤専従手話通訳）、千歳市障がい者総合支援センターChip（品田） |
| 要 旨 | １．「咲む」上映会の報告 ２．今後について ３．その他 <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会より ・手話通訳者より ・障がい者支援課より |
| 会議内容 | <p>○会長挨拶</p> <p>初めに会長より挨拶があり、新型コロナに関しては今後とも警戒が必要ではあるが、顔を合わせて話ができることが増えるのは何よりという話をされた。また、江差町の事件については大きなショックを受けた。この件は、以前に避妊手術を受けさせられるということがあったろう者にとっても大問題である。情報を的確に得ることが必要であると思っているという話があった。</p> <p>昨日、情報コミュニケーション条例の説明会があったと聞いているが、内容等については今後確認していきたい。</p> <p>１．「咲む」上映会の報告</p> <p>11月26日（土）、北ガス文化ホール視聴覚室において開催、60人の参加があった。「良かった」「いい映画だった」という声があった。コロナ禍にもかかわらず参加いただいたこと、またガソリン、ガス代、もろもろ値上がりして苦しい状況の中で来ていただいたことに感謝している。</p> <p>【質問等】</p> <p>○恵庭市で開催の予定はあるか。 ～恵庭市役所とは話しておらずまだ決まっていない。恵庭市で活動できる方がいなく開催は難しいが、来年度開催できるように頑張りたい。</p> <p>○関係者以外の市民の方の参加はどの程度だったか。 ～手元に資料が無いためはっきりとは言えないが、10～20名ほどだったのではないかと。</p> |

○千歳での2回目の開催は。

～今のところ考えていないが、今後市や市教委と相談したい。

2. 今後について

○今年度の事業はほぼ終わった。来年度の方向や取り組みについて、意見があれば出し合いながら考えていきたい。

○石狩市では、手話の授業が学校のカリキュラムに組み込まれている。子どもに伝えていくことは今後の広がりを考えても重要。教育委員会との連携を考えていくとよいのでは。

- ・来年度教育委員会と話をする場を作りたい。これまで福祉の授業で手話を取り上げてきているが、それぞれの学校が自主的に開催しており全部ではない。どういう方向がいいのかはまだ決まっていない。

- ・社協でも福祉の授業を行っているが、それぞれの学校が「総合」の授業で行っている。手話を取り上げることは多いが、総合の授業は手話だけではない。石狩のようにカリキュラムに組み込むとなると、教育委員会との話が必要になる。

すぐにはいかにしても、オブザーバーのような形で部会に参加してもらったり、校長会・教頭会への働きかけなどもあればよい。

- ・石狩では市長が頑張ってくれた。千歳ではどのような形でできるか考えたい。

- ・教育委員会との関りは大事だと思う。手話通訳問題研究会でも教育関係の依頼は増えているが、まだ少ない。教育委員会とのかかわりを考える際に、市の福祉課等と連携して福祉の授業を増やすことも考えられないか。

子どもへの働きかけとともに、大人への働きかけもあったらいい。ウィズコロナの時代、市民対象のイベントなども企画して行って良いのでは。地域での手話体験・移動後援会など、たとえ少数であっても聞こえない人たちの姿が見える試みがあるとよい。今は条例が眠っている。

- ・来年度「動く1年」と考えたい。実現できるかどうかはわからなくても、打診してみる。出来ないならばできるようにするために何が必要かを考える。そうして一歩ずつでも前に進めたい。

○ほかに機関とのかかわりについてはどうか。

- ・医師会への働きかけ。タブレットを医療機関に置いてもらっているが、協力してくれるところはまだ少ない。

- ・介護医療連携の会を通じてということも考えられるのでは。

- ・商工会議所、図書館～読み聞かせ、学童保育（こども家庭課、指定管理団体との話が必要か）などはどうか。

| | |
|-----|--|
| | <p>3. その他</p> <p>○この部会は、来年度はいつ頃、何回くらい開催されるのか。自分たちの例会で出された話をまとめて持ってこられたらもっといいのではないかと思う。</p> <p>○要約筆記の会も、声をかけていただければ今後広めていく機会にともに頑張っていきたい。様々な場で話をしていきたいと思っている。</p> |
| 作成者 | 千歳市障がい者総合支援センターChip 品田 敏 |

| | |
|---------------------|--|
| 令和４年度 第２回進路連絡会議 報告書 | |
| 日 時 | 令和５年２月１日(水) 13:30～15:00 |
| 場 所 | 千歳市総合福祉センター 402号室 |
| 参 加 者 | 千歳市内事業所 (33 名) 養護学校・高等養護学校(14 名) 事務局・相談機関 (8 名) 行政 (1 名) 参加者合計 (56 名) |
| 要 旨 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業予定者、在校生の進路動向（別紙参照） 2. 福祉事業所より概要説明（別紙参照） 3. 就労アセスメントについて（別紙参照） 4. 福祉事業所と学校関係で情報交換と質疑応答（別紙参照） |
| 会議内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業予定者・在校生の進路動向 ※進路希望、就職先、入所先の報告。別紙参照 2. 福祉事業所より概要説明。 新規事業所や増設、移転などの情報。別紙参照 3. 就労アセスメントについて →今年度の就労アセスメントについては各相談支援事業所で計画相談と、就労移行支援いずみワークセンター・ゆうび様の二か所でアセスメントを実施し、現状問題なく進んでいる。 4. 福祉事業所と学校関係で情報交換と質疑応答 <ol style="list-style-type: none"> ① 就労について <ul style="list-style-type: none"> ●卒業生の様子について <ul style="list-style-type: none"> ・A型就労を２年間行った後、一般就労に移った利用者がいる。 ・自分で一般就労の仕事を見つけ就職、事業所を退所後も電話連絡等でサポートすることもある。 ・就労移行支援を利用し２年半で一般就職に繋がった利用者がいる。 ・生活介護から就労アセスメントを経て、B型へステップアップしたり、GH生活を始めた人もいる。 ●就労アセスメントの傾向について（アセスメント担当者より） →手先が器用だったり、仕事をする体力がある生徒が多い印象がある。就労に向けて在学時にコミュニケーション面や報告・連絡・相談等の社会性を磨いていければ、なお良いのではと感じている。 ●学校より <ul style="list-style-type: none"> ・在学時は将来的に一般就労を希望し段階的にA型事業所へ進むが、A型就労で安心してしまいその先を目指せなくなってしまうことがある。A型就労から一般就労へのステップアップについてどのようにサポートしているか。また、就労移行支援を勧めても工賃の問題があり、本人・保護者は一般就労の給料に近いA型事業所を希望することがある。 |

| | |
|-----|---|
| | <p>利用者はいる。</p> <p>→目標はどこなのか就労開始時に確認する。就労移行支援を通して一般就労へ進む方がいたり、B型事業所から一般就労する人もいるので選択肢として考えてもらいたい。相談の窓口や就労推進室やませみのサポートも活用してほしい。</p> <p>② 居住環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千歳における地域特性について <p>→グループホームの利用希望者のニーズとしては知的障害の方が多かったり、支援事業所が多く充実している印象。精神障害の方のグループホームの利用希望者の方も各窓口（市役所や千歳地域生活支援センターやCHIP）とも相談を。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と事業所でお互いの制度や業務の理解。 <p>→各学校で現在の在籍生徒でどのような障害のある方が多いかを確認。また各グループホームではどのような入居者が多いか、また対応可能かを確認。</p> <p>※24時間 目が離せない方。金銭管理等のサポートを受けたら、1年くらいでより自立に近づける方のイメージなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所にあたっての手続きの方法 <p>→市役所の申請で区分の決定や計画案の提出などの流れの共有。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業に向けて体験入所について。 学生が利用した際に、事業所の事を気に入ってここに入りたいと相談有るが、卒業時には枠が埋まってしまっていて、入れないことが多い。 <p>→事業所としても枠を開けておくことは難しいので、体験の目的としては住む前提の体験になると難しい現状がある。</p> |
| 作成者 | 千歳市障がい者総合支援センターChip 品田 敏 |

（仮称）障がい者コミュニケーション条例の意見交換会について

日 時：令和５年２月８日（水） 13時30分～14時30分

場 所：千歳市役所第２庁舎 ２階会議室４

出席者：千歳視覚障害者福祉協会長、千歳市肢体不自由児者父母の会長

千歳市つくし会事務局長、障がい者支援課長、障がい福祉係長

欠席者：千歳身体障害者福祉協会、千歳聴力障害者協会、千歳市手をつなぐ育成会

1 意見交換会の内容

初めに市から意思疎通支援に関する現状と条例策定についての考え方を説明し、その後出席団体から意見を伺った。

2 結果

| 団体名 | 必要性 | 制定時期 | 主な意見 |
|----------------|-----|---------------------|--|
| 千歳視覚障害者福祉協会 | あり | 様々な意見を聞いた後に着手 | すべての障がい者が参加して作成するのであれば賛成できるが、現状ではまだその状況にない。じっくり時間をかけての話し合いが大事である。 |
| 千歳市肢体不自由児者父母の会 | あり | 様々な意見を聞いた後に着手 | 条例がある事によって、障がい者が広く市民に理解される事は良いと思う。しかし、多様性のある障がいをどのように条例に盛り込むかは困難になる。 |
| 千歳市つくし会 | あり | 様々な意見を聞いた後に着手 | 地域住民との関わりの中で、理解を深めることが大事である。 |
| 千歳身体障害者福祉協会 | あり | 即時着手 | 個々の障がい特性に応じたコミュニケーションの方法は様々であり、その特殊性も障がいの程度により大きく異なる。条例制定は、特別の配慮を必要とする人たちのコミュニケーションについての取り組みの第一歩となる。 |
| 千歳聴力障害者協会 | あり | 早ければ早いほど良い | 障がい者に対するコミュニケーションや情報の保障は、すべてにおいて平等であることが重要である。しかし、障がい者も市民も平等になっていないことに気が付かないケースも少なからずあり、条例を制定することによりコミュニケーションの大切さをすべての人々に周知することが重要である。 |
| 千歳市手をつなぐ育成会 | あり | 様々な意見を聞いた後できるだけ早く着手 | それぞれの障がいで必要となる支援が異なるので多くの意見を聞いて整理する必要があるが、できるだけ早く実現すると良い。 |

※ 欠席団体の意見は、意見交換シートから抜粋

3 今後

引き続き、広く意見を伺うこととし、その結果を踏まえ、具体的な進め方を整理しお示しする。